

## 平成 23 年度 第 3 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

### 1 開催日時

平成 24 年 1 月 24 日（火）10：00～11：45

### 2 開催場所

札幌市役所 14 階 1 号会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小笠原委員、山下委員

#### (2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局工事契約担当課長、財政局契約管理課長、財政局技術管理担当課長、財政局建築検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 9 名

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 委員長あいさつ

#### (3) 報告事項

ア 入札金額の分布について

イ 意見書（H22 年度）に対する市の対応状況について

ウ 公契約条例について

#### (4) 抽出工事等の決定・審議

#### (5) 意見交換

#### (6) 閉会

### 5 質疑応答

#### (1) 入札金額の分布について

（蟹江委員長）

業務のうち、測量と地質調査はくじ引きが多かったと記憶しているが、設計についても同様の傾向となっているのか。

（札幌市）

設計についてもくじ引きが多く発生している。

（山下委員）

入札金額のばらつきが大きい工種は、積算が難しいという理解でいいのか。

（札幌市）

建築等の営繕系の工種については、見積もりによる部分が出てくるので、積算する業者からすると難しい部分がある。

## (2) 意見書（H22年度）に対する市の対応状況について

（蟹江委員長）

工事等積算内訳書は、くじ引きによる決定も含めて、全ての落札候補者から提出させているのか。

（札幌市）

全ての落札候補者から提出させている。

（蟹江委員長）

これまでに提出された積算内訳書の中で、特定の部分が極端に安く積算されている等、問題が見つかった事例があるのか教えてもらいたい。

（札幌市）

今のところ問題があった事例は確認されていない。

（小笠原委員）

以前に説明があったと思うが、札幌市工事等入札結果調査要領における調査対象案件の拡大について、改めて説明をお願いしたい。

（札幌市）

従前は、談合防止を目的として高落札率の案件を注視していたが、最低制限価格付近での入札や受注件数の多寡にも視点をあてて、調査対象案件を拡大した。

（岡田委員）

成績重視型における評価年数を5年から2年や3年に短くした場合、入札に参加できる者の入れ替わりはどのくらい起こるのか。

（札幌市）

全ての工種について整理したわけではないが、若干の入れ替わりが生じることになると思われる。評価年数についても2年か3年で差が出てくるので、どのような影響があるのか慎重に検討しているところである。

## (3) 公契約条例について

（山下委員）

入札制度に何か影響があるのか教えてもらいたい。

（札幌市）

入札制度そのものに影響が出ることはない。

## (4) 抽出工事等の決定・審議

ア 烈々布支線（烈々布区界通線～百合が原公園東口前間）道理改良工事

イ 3・4・6 2 富丘通（新川）橋梁下部工新設工事

（岡田委員）

技術評価重視型（総合評価方式）については、技術を評価する以上、地域貢献等の評価項目は項目としていないのではないのか。地域貢献を評価項目として取り入れている理由について教えてもらいたい。

（札幌市）

工事を円滑に進めるためには、地域への精通度や災害時の対応等の活動を通じて、そ

の地域において信頼されている企業によって施工されることが望ましいとの考えから評価項目として採用しているところである。

(蟹江委員長)

工事の表彰基準とはどういうものか。

(札幌市)

工事評価点や安全に無事故で施工したことが評価される。また、抜き打ちで夜間パトロールも実施しており、その結果についても反映される。

(山下委員)

総合評価の評価項目について、何か要望されていることはないのか。

(札幌市)

評価項目についての要望は特に聞こえてこないが、入札参加者や落札者が固定化されやすいのではないかと、という話は出ている。

(小笠原委員)

総合評価点の算出において、入札価格が調査基準価格を下回った場合は、調査基準価格に読み替えて算出しているが、この仕組みの考え方について教えてもらいたい。

(札幌市)

調査基準価格を下回った価格で入札しても、総合評価では有利にならないため、技術力が反映されやすい仕組みとなっている。また、入札価格を調査基準価格に打ち止めにすることで低入札防止にもなっている。

## 6 意見交換

市長に意見具申することが決定され、原案については、蟹江委員長が作成することで各委員了承。

各委員から寄せられた主な意見は次のとおりである。

- ・ 優良な企業が参加しやすい競争環境を整えることが安くていいものを調達するポイントになる。このような観点から見れば成績重視型の評価年数を現行の5年から2年や3年に短くすることは、直近で優良な企業を絞り込んでいくことになるので、適切な競争の促進につながると思う。
- ・ 長期的に優良だった企業にも受注機会が引き続き与えられることが必要。成績重視型については、長期的に優良である企業と短期的に優良である企業両方が評価される仕組みがあると良い。
- ・ 意見書に新たに盛り込む内容はないと思うが、入札結果の分析については、継続的な取り組みが必要。
- ・ 技術評価重視型（総合評価方式）における評価項目のうち、同種工事の施工実績の評価点のウェイトを重くすることはできないのか。現行の評価バランスだと落札者が固定化される傾向が出ている。技術力を評価した結果とも言えるが、競争性が出るよう工夫する必要もあるのではないかと。